

## 学習内容と到達目標

👉 自分の国の歴史的な建造物や文学・芸術などについて紹介する。

## 指導のポイント

### 1. INTRODUCTION

この課の話題は「文化・芸術」で、学習者にとって未知の語彙も多い。そのため、他の課のように最初に長々とした対話や独話を聞かせることはせず、単文レベルの導入から学習をスタートさせる。もちろん、スケジュール的に余裕があれば、(受身の導入の前に) 学習者の知っている歴史的建造物や芸術作品を紹介させたり、(❶に示された6枚の写真以外に) いくつか歴史的建造物や芸術作品の写真を用意しておき、その名前や作者、所在地を言わせるなどして、学習者の興味・関心を高めるようにする。

### 2. FOCUS

いずれも単純な活用の練習なので、難なくできるはず。

### 3. READING

4課と同様(というか、それ以上に) 未知の語彙が多く難しい内容なので、(特に非漢字圏学習者の場合) いきなり読ませるのではなく、まずは本文中に出てくる文化・芸術について母語で調べさせるようにする。その際、以下のように質問形式にすると、学習者も調べやすい(受身の用法の確認にもなる)。

1. ひらがなとカタカナはいつごろ発明されましたか。
2. 源氏物語はだれによって書かれましたか。
3. 10円硬貨にデザインされているのはどれですか。
  - a. 平等院鳳凰堂
  - b. 厳島神社
  - c. 中尊寺

このようにして本文中に出てくる文化・芸術について基礎的知識を得た後で、本文を読ませ、表現等の確認をする(読解は暗号解読ではないし、この文章は読解力を伸ばすために書いたものではなく、作文やスピーチのモデルとして書いたものなので)。

### 4. FOCUS

「〇〇年に世界遺産に登録されました」と「世界遺産に登録されています」の違いを理解させる。前者は過去の出来事、後者は現在の状況。

### 5. VOCABULARY

「～と言えば？」はクイズ番組で問題を出題する時に使われる表現として教える。クイズの内容(例、日本で最初に新婚旅行をしたのが坂本龍馬であることなど)はすべてVol.1の13課や20課で学習済み。

トピック・シラバスで取り上げる話題は単なる「ネタ」ではなく、日本語と共に**学ぶべき内容**であることに注意。

### 6. LISTENING

お馴染みのものばかりなので、容易に答えられるはず。

## 7. SPEAKING

クラスまたはグループで分担を決め、各自調べて発表させるようにする。

注. この9つの文化遺産は12課のイントロでリスニング問題（例、「福岡の志賀島で発見されたものは何番ですか」）として再利用されるので、事前に問題の内容を確認し、正解を得るために必要な情報が学習者の発表に含まれていなければ、補足しておく。

## 8. PAIR WORK

学生が20代前半だと2番は見たことがないかもしれないが、それ以外は比較的身近なものばかりなので容易に答えられるはず。

## 9. COMPOSITION

[3. READING] を参考に自分の国の歴史的建造物や芸術作品を紹介する文章を書かせ、スケジュール的に余裕があれば、スピーチもさせる。

- I 選んだ時代と時代背景
- II 文化の紹介①（トムさんの場合：文学）
- III 文化の紹介②（トムさんの場合：美術）
- IV 文化の紹介③（トムさんの場合：建築）

## 活動例

### ①ディクトグロス

☞ 広島大学の迫田久美子先生が、ご自身の著書で [8. PAIR WORK] の問題1を活用した練習法を紹介していらっしゃいます。これは「ディクトグロス」と呼ばれるインプット重視の指導法の1つで、グループまたはペアで行う書き取り練習です。具体的な方法については以下の本の170ページを御覧ください。

鎌田修・嶋田和子・迫田久美子編（2008）『プロフィシエンシーを育てる』（凡人社）

